

地域の未来を見据えた当署の取組

後志森林管理署

はじめに

後志森林管理署は後志総合振興局・胆振総合振興局管内のそれぞれ一部（3市12町5村の計20市町村）を管轄しています。

管内には、支笏洞爺国立公園、ニセコ積丹小樽海岸国立公園、狩場茂津多道立自然公園のほかレクリエーションエリアも多く、スキーや温泉等国有林を利活用する市町村が多い一方、林業を主産業とする市町村が少ないのが現状です。

ニーズの把握と実施

様々な地域課題の解決に向けて、後志総合振興局森林室と連携して、林政連絡会議等の機会に市町村の林務担当者へ支援すべきニーズの把握を行っています。昨年度は新たな森林経営管理制度に伴う森林整備の推進のため、森林の現況把握に役立つ、ビッターリッヒ法の実習や全天候力メラの活用法などの研修会を開催。今年度初めの後志総合振興局との打合せにおいて、

森林整備のためドローンを導入している市町村もあることから、今年は森林整備における活用方法や操作について、市町村林務担当者や森林組合等の林業事業者を対象に「無人航空機（ドローン）活用研修」を開催することとしました。



振興局との打合せ

地域の課題

後志署管内には、地域材の利用が進まないことやCLTを使用した公共施設がない等の課題があります。

後志署の所在する倶知安町では2030年に北海道新幹線の駅舎が完成する予定です。この駅舎等に地域材が活用されるよう倶知安町を始め、地元の関係機関と連携した取組を進めてい

ます。CLTの使用については、老朽化した森林事務所のCLTでの建替を申請中です。建替が実現できれば後志署管内で初のCLTを使用した公共施設としてシンボリックなものとなり、利用促進に繋がることを期待しています。



北の森漫画より抜粋

また、元日本ハムファイターズの田中賢介さんが、現役時代に道産のダケカンバを使用したバットで公式戦ヒットを打ったことをご存じの方もいると思います。後志地域のダケカンバでバットが作れるのであれば、地域の名産として林業

の活性化に繋がる可能性を秘めています。そのため地域の資源量把握や強度の検証などに向けて関係機関と連携して取組んでいきたいと考えています。

林業の人材確保

林業の現状は人材の確保が難しく、若い世代が森林業に対して関心を持ってもらうことが必要なところですが、このため森林管理署長が管内の市町村長に森林管理局が発行した「北の森漫画」を紹介し、管内の学校に配付することなどを説明しました。市町村からは大変好評で図書館や道の駅など施設に配付したい。キャンプ場にも備え付けられれば子供や自然が好きなら方々への木育に繋がるのでは等の意見を頂きました。市町村実行管理推進チーム会議においても「北の森漫画」を同様に紹介しました。これらの取組で地域全体に林業に対する興味が生まれ、若い世代が林業に関わってくれられることを願っています。